



大原中学校だより

【大原中学校の教育目標】
「目的意識をもって自ら学び、心豊かに逞しく生きる生徒の育成」



令和元年12月24日
第26号
校長 柴田美由紀



2学期終了…謙虚な心で今学期を振り返り、新しい年への決意を固めよう！

1年で最も長い78日間の学校生活を送った2学期も今日で終わります。皆さん一人一人の2学期の評価はいかでしょうか。まず、行事面です。2学期は2大行事がありました。体育大会は、短い練習時間でしたが、今年も、各ブロックでリーダーシップ、フォロワーシップを発揮し、団結を深めて燃えることができました。文化発表会は、各学級共いろいろな課題を克服しながら、自分たちの合唱を創り上げることができ、聴く者に感動を与えることができました。

振り返れば、これら行事の取組は、最初一人からやらされる活動だったのが、目標や計画がはっきりし自分からやる活動に変わり、その過程で、協力する喜びを味わえ、友達の新たなよさも発見できたと思います。行事を通じて貴重な体験を積み、大きく成長を遂げた皆さんの生徒の姿を見ることができたことはうれしいことでした。

学習面では、設定した目標は達成できたか、計画は妥当であったか、改善策はうまくいったかを評価してみましょう。3年生は勝負の冬休みです。…「成功とは成功するまでやりつづけること。失敗とは成功するまでにあきらめてしまうこと。」という格言があります。エジソンは電球を作り上げるまで、一万回失敗したそうですが、「私は実験において失敗など一度たりともしていない。これでは電球が光らないという発見を、今まで一万回したただけだ」と語ったそうです。諦めずに行動している限り、確実に力が作用し、何か変化して、結果学力が身に付いていくのです。がんばりましょう。

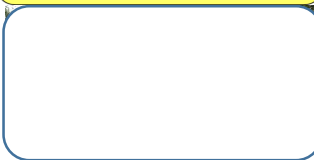
最後に生活面ですが、この2学期を振り返るとき、行事などでの皆さんのがんばり、団結力が発揮された一方で、心ない言葉を平気で友達に向けてしまう場面やからかいの場面などがいくつかあったように思います。このことだけは、2学期を振り返って、皆で真剣に反省しなければならないことだと思います。

よりよい人間関係づくりの基本は、「相手の身に心を行き届け、言葉を行き届かせる」ことに尽きると思います。皆さんには決して言葉の横着者、怠け者になってほしくないと願っています。相手の心の波長に自分の心の波長を合わせるために、言葉は惜しみなく使わなければいけないのだと思います。最近ではLINEなどSNSでの心ない書き込みから友達を傷つけ思わぬトラブルに発展するケースも増えています。

私は、みなさんに「言葉のこわさ」というものを知ってほしいと思っています。「舌の紡ぎ出す言葉は、どんな切れ味のよい刃よりも、猛毒を塗った矢よりも強い。」というアイヌのことわざもあります。大人でも子どもでも「人は言葉で沈み、言葉で生きる」ものです。大原中学校が目指してきた「学校における人権文化の確立」も、このような「相手の立場に自分を置き換えて考え、悩みや苦しみ、悲しみや願いを理解し、一歩でも相手に近づく」ための言葉や行動を大切にすることが土台であったはず。「行く言葉が美しくれば、来る言葉も美しい」のです。2学期の終わりにあたって、「生徒一人一人が安心でき、互いに大切にされていると実感できる学校」をつくっていくことを再度みんなで確認したいものだと思います。

来たるべき新しい年は、この大原中が「相手を笑顔にさせる言葉が力」のできる人で、一杯になってくれることを期待します。

中体連市郡駅伝競走大会 中体連筑後地区駅伝競走大会 ～『自分発』で1秒を削り出す～



10月19日、中体連市郡駅伝競走大会が行われ、男子4位、女子3位という頑張りを見せてくれました。地区大会でも、男子は14位、女子は7位という成績を収めてくれました。市郡大会、地区大会ともに粘りの走りは狂巻で、雨の日も風の日も、毎朝走り込んできた努力が報われた瞬間でした。仲間と共に苦しい練習を乗り越えて、ただひたむきに走り続けた選手のみなさんの姿に感動を覚えます。よくがんばりました。大原中駅伝部のみなさんが、これからも『自分発』で心もタイムもどんどん伸びていきますように。

『前向きな心を大切に』…『おごおりっ子からのメッセージ』

11月2日に小郡市文化会館で「おごおりっ子からのメッセージ」が開催され、本校からは3年2組の安部 拓磨さんが学校の代表として「考え方」と題し、これまでの経験を通し、自分が身に付けた物事を前向きに考える姿勢について思いを語ってくれました。中学2年でキャプテンになるまでは、マイナス思考であったが、それではチームをまとめリードしていくことはできないことに気づき、怒られるときは「期待されている」と、失敗したときは「失敗は成功のもと」と考えるようになったこと、そして、「みなさんも悲しいときやつらいときには落ち込まず、そのことを前向きに捉えて楽しい生活を送りましょう。また、わたしのお気に入りのことば『できる』です。自分を前向きにしてくれる言葉を探してみよう。」と結んでくれました。体験を通して得た「前向きな心」は大きな共感を呼び、満場の拍手が送られました。



数々の入選・入賞 おめでとう！

- ・第30回野田宇太郎生誕祭 献詞入選
中学生の部 佳作 3年 松尾 姫奈「花の恋心」 佳作 2年 中村 心哉「八月十五日」
- ・第13回小郡市「社会を明るくする運動」作文コンテスト
中学生の部 優秀賞 2年 山本 葉 「優しい心の持ち主に」
奨励賞 2年 伊藤 凜 「幸せ」
1年 飯島 希香 「やる気スイッチ」
1年 香月 梓沙 「社会を明るくするために」
- ・中学生人権作文
久留米協議会賞 3年 山田 美保 「男女の平等をめざして」
- ・「心のふれあい大賞—わたしのまわりの医療体験」
中高生の部 優秀賞 2年 副島 美結「私の弟」
- ・第29回花の絵コンクール
入選 3年 中津 咲美
- ・灯台絵画コンテスト2019
銅賞 3年 古田 あい
- ・薬物乱用防止のためのポスター
入選 3年 瓜生 遥菜 3年 中津 咲美

この2学期、様々な団体が募集した作文コンテストや短歌、詩、標語などでうれしい入選・入賞がありました。いずれも、作者の確かな

主張や内容、感性が高く評価され受賞したものです。左にまとめて紹介します。よくがんばりました。おめでとう。

「すべての子どもたちの教育条件に関する署名への御協力」ありがとうございました。

署名活動や地域のお世話をしていたいただいたPTA地域代表委員さん、各地区で署名に回っていただいた皆様、お忙しい中活動していただき誠にありがとうございました。また、趣旨に御賛同いただき署名をしていただいた方々にも厚くお礼を申し上げます。おかげさまで、本年度、大原中校区で**6,168名**という多くの署名を集めていただきました。本当にありがとうございました。11月11日には市教育委員会へ陳情に伺いました。ここで、市教育委員会教育長からも、国や県の財政状況が厳しい中にはあるが、これまで小郡市が積み上げてきた教育要求運動の経緯や署名に込められた市民の声を伝えていきながら、今後も継続的に取り組んでいく旨の回答をいただきました。11月20日、市教育委員会と学校・地域の代表者がこの署名を持って県教育委員会への陳情に行ってきました。皆様の御支援と御協力に重ねてお礼を申し上げます。